

障害者の地域就労機会開発に向けた羽毛リサイクルシステムの構築

一般社団法人 Green Down Project

羽毛リサイクルシステムを通じて障がい者の雇用を生み出す

羽毛製品を回収して再生産し、新たな商品に生まれ変わらせる「循環」のしくみづくりを進めるとともに、障害者の身近なくらしの場での「地域就労」の機会を開発することを目的として、次の3つの取り



長岡京市・UMOU プロジェクト関西と3者協定調印式



組みを進めました。

- ① 羽毛の回収（リサイクル）・解体（羽毛商品から羽毛を取り出す）作業の事業化
- ② 被災地備蓄品の開発と販売（羽毛を使用した寝具の開発）
- ③ プロジェクトの理念に賛同した会員企業の障害者就労機会の開発（社会事業の起業による法定雇用の達成）

これらの3つの「仕事おこし」の取り組みを全国の各地域や団体・企業に働きかけてきました。

企業との連携が障がい者雇用の受け皿を広げる

多様な企業と協働し羽毛回収ルートを確立することで、回収量を安定させ、解体拠点の継続的な運営を図りました。重度障害者でも就労ができるように業務をマニュアル化するなど、障害者雇用の受け皿の拡大に向けて様々な工夫を行いました。

また、新たに2つの羽毛解体拠点を創出したことで、2020年3月までに延べ12名の障害者就労雇用を生み出しました。

加えて、会員企業の障害者雇用機会の開発に向けた「ユニバーサルワーク研究会」を組織化し、様々な職種の企業の実情に応じた雇用機会の創出方法の検討を積み重ねたことで、特例子会社の設立へと結びつき、障害者の5名の雇用と10名の実習生の受け入れが実現しました。

普及啓発活動を通じた理解のさらなる促進

グリーンダウンの普及啓発活動を展開した結果、事業初年度と比較した最終年度の羽毛回収量は約3倍、会員企業数は約4倍にもなっています。今後も継続的な普及啓発活動を行い、解体拠点の整備に必要な要件を整理したうえで、障害者の雇用機会の開発に注力していきます。

担当者の声

一般社団法人 Green Down Project
理事長 長井 一浩さん



不要になった羽毛製品をリサイクルすることによって、障害を持つ人だけでなく、働きづらさを持つ人の雇用や労働環境も実現していきます。そのためにも、発足時から様々な企業や団体との協業、共創を前提としたパートナーシップの在り方についても今後更なる強化を図っていき、環境にも人にも優しい社会づくりをめざしていきたいと思っています。